文体，描写，語句などの表現の仕方を工夫すること。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　本歌取りや折句などを用いて，感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり，伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで，随筆などを書いたりする活動。

B　読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　文章の種類を踏まえて，内容や構成，展開などについて叙述を基に的確に捉えること。

イ　作品や文章に表れているものの見方，感じ方，考え方を捉え，内容を解釈すること。

ウ　文章の構成や展開，表現の仕方，表現の特色について評価すること。

エ　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ，内容の解釈を深めること。

オ　作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，感じ方，考え方を深め，我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

(2) (1)に示す事項については，例えば，次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア　我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論，随筆などを読み，我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動。

イ　作品の内容や形式について，批評したり討論したりする活動。

ウ　異なる時代に成立した随筆や小説，物語などを読み比べ，それらを比較して論じたり批評したりする活動。

エ　和歌や俳句などを読み，書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり，テーマを立ててまとめたりする活動。

オ　古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材，内容，表現の技法などについて調べ，その成果を発表したり文章にまとめたりする活動。

3　内容の取扱い

(1) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕における授業時数については，次の事項に配慮するものとする。

ア　「A書くこと」に関する指導については，５～10単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。

イ　「B読むこと」の古典に関する指導については，40～45単位時間程度

を配当するものとし，計画的に指導するとともに，古典における古文と漢文の割合は，一方に偏らないようにすること。その際，古典について解説した近代以降の文章などを活用するなどして，我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。

ウ　「B読むこと」の近代以降の文章に関する指導については，20単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導すること。その際，我が国の伝統と文化に関する近代以降の論理的な文章や古典に関連する近代以降の文学的な文章を活用するなどして，我が国の言語文化への理解を深めるよう指導を工夫すること。

(2) 内容の〔知識及び技能〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア　(1)のイの指導については，「現代の国語」の内容の〔知識及び技能〕の(1)のウの指導との関連を図り，計画的に指導すること。

イ　(2)のウの指導については，〔思考力，判断力，表現力等〕の「B読むこと」の指導に即して行うこと。

(3) 内容の〔思考力，判断力，表現力等〕に関する指導については，次の事項に配慮するものとする。

ア　「A書くこと」に関する指導については，中学校国語科の書写との関連を図り，効果的に文字を書く機会を設けること。

イ　「B読むこと」に関する指導については，文章を読み深めるため，音読，朗読，暗唱などを取り入れること。

(4) 教材については，次の事項に留意するものとする。

ア　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「B読むこと」の教材は，古典及び近代以降の文章とし，日本漢文，近代以降の文語文や漢詩文などを含めるとともに，我が国の言語文化への理解を深める学習に資するよう，我が国の伝統と文化や古典に関連する近代以降の文章を取り上げること。また，必要に応じて，伝承や伝統芸能などに関する音声や画像の資料を用いることができること。

イ　古典の教材については，表記を工夫し，注釈，傍注，解説，現代語訳などを適切に用い，特に漢文については訓点を付け，必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。

ウ　内容の〔思考力，判断力，表現力等〕の「A書くこと」及び「B読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

エ　教材は，次のような観点に配慮して取り上げること。